

ポスト・スポーツ時代の 「前－個体」と「間－身体」

データ革命や先端テクノロジーとの積極的融合によって、スポーツは不可逆的な変容を遂げている。選手の身体運動は随時カメラにサーベイされ、生体は無際限にデータ化されていく。その結果、偶然性にひらかれてきた競技性は、データのアルゴリズムに規定される。「予測」に基づくゲーム戦略を体現する身体こそがスポーツの主人公となりつつある。この身体は、制御（ドゥルーズ）を動因とする外部なき環境に組み込まれるが、これは個的身体に先行する「間－身体性」や「前－個体性」の領野を新たなフィールドとするポスト・スポーツ時代の身体を映し出している。

日時：2020年11月27日（金）17:00～19:00

場所：学術交流ルーム＋オンライン配信*

※オンライン配信の詳細については開始日までに追ってご連絡いたします。

講師：山本 敦久（成城大学社会イノベーション学部教授・Promis連携フェロー）

司会：井上 弘貴（国際文化学研究科准教授）

討論者：小笠原 博毅（国際文化学研究科教授）

竹崎 一真（学習院大学非常勤講師）

申し込み：bit.ly/promis20201127

※直接会場にお越しいただく方は予約不要です。

講師略歴

山本 敦久（やまもと あつひさ）

1973年長野市生まれ。筑波大学大学院人間総合科学研究科単位取得退学。専門は、スポーツ社会学、カルチュラル・スタディーズ。現在は、成城大学社会イノベーション学部教授。主な著書として『ポスト・スポーツの時代』（2020年、岩波書店）、『反東京オリンピック宣言』（小笠原博毅との共編、2016年、航思社）など。